

狭山の元気 発見

躍

ものづくり
人づくり

家族一丸となった直向きな取り組みが 今、大きな実を結ぼうとしています

権現橋から下流に向かつて不老川沿いを歩いていくと、広大なブルーベリー畑を目にすることができず。食べる血液がさらさらになり、目にも良いといわれているブルーベリー。堀兼の森田さんが栽培を始めたのは2年前でした。今では自宅付近の農園(4ha)に、1万7千本ものブルーベリーが植えてあり、80cmぐらいに成長した若木は、かわいい実をたくさん付けて7月ごろから始まる収穫を待っています。

ブルーベリーには、大きく分けて寒い地域に適したハイブッシュブルーベリーと暑い地域に適したラビットアイブルーベリーがあり、それぞれ収穫の時期が異なります。狭山では両方の種類が栽培できるため、森田さんはいろいろな種類を栽培し、長い期間途切れることなく収穫ができるように工夫しました。

ブルーベリーの栽培。この

新しい試みに挑戦しようとしたとき、それまで里芋などの野菜を中心に生産していた家業を変えることが一番大変でした。何といつても県内で栽培している農家が少なく、書籍やインターネットなどで調べるとはもちろんです。全国の農家で実際の栽培方法や作業などを何回も視察しました。さらに本場のようすを知るために家族でニュージーランドにも行きました」と始めたころの苦労を振り返ります。

ブルーベリーは乾燥を嫌う植物のため、灌水設備には最先端の技術を導入し、水と養分を自動的に与えるようなシステムを取り入れ、なるべく効率よく栽培できるようにしています。そうはいっても、特に最初のころは、苗木のようすが気になつて朝早く目が覚めてしまい、農園を見回すこともありました。幼木の時期に

一番手をかけてあげなければ、よい木に育ちません。人間と同じです」とブルーベリーにかける思いを話します。

「果実は傷みやすく、収穫や販売の方法などにもまだ課題があります。成功するかどうかは、これからのことですが、始めたことに後悔はしていません。農業大学で学んでいる息子が、後継者として一緒に働いてくれること、そして自信を持って育てたブルーベリーを、みんなに喜んで食べてもらうことが何より楽しみです」と、熱い口調で語る森田さん。ブルーベリー栽培が、軌道に乗ったとき、観光農園やジャム工場などの新しい産業が、狭山に生まれることでしょう。



作業中の満平さんと父の進平さん

森田 満平さん
(ブルーベリー栽培農家)

狭山市の新しい特産物になるように
体によく、おいしいブルーベリーを通して
元気な狭山を全国に向けて発信したい

オピニオン 声

皆さんの「声」をお寄せください。



ゴルフの大会で接待係として活動

などを出したり、会場内のごみの片付けや灰皿の清掃などをしながら、選手や役員、そして一緒に働いたボランティアなど、多くの方とふれあうこ

私は昨年勤めを辞めて、何か地域や人の役に立つことはできないかと考えているとき、広報紙の国体ボランティア募集の記事を見て応募しました。昨年のリハーサル大会では、休憩所接待、会場美化の係として参加させていただきました。競技に出場された選手や役員の人たちに冷たい飲み物

今年、彩の国まごころ国体が開催されます。大会を市民総参加で盛り上げていくため、会場美化、休憩所接待、受付案内、写真記録など大会運営に多くのボランティアが活躍します。昨年のリハーサル大会に参加し、そして、今年の本大会でもボランティアとして協力してくださる金子さん(中央在住)からの「意見」です。

国体で狭山市を訪れる方たちに
気持ちよく帰ってもらえるように

とができたことは、私の一生の思い出になっています。

その活動の中で、大会に出場した選手の皆さんから狭山市のことをたびたび尋ねられました。今年の国体には、全国から昨年以上に選手や役員、そして応援の方たちが狭山市を訪れると思います。今回は、狭山市を宣伝する絶好のチャンスです。少しでも多くの方に、狭山茶や市のよさを知ってもらえるような工夫が必要ではないかと思っています。

「狭山市って、いいまちだった」と気持ちよく帰ってもらえるように、心を込めてボランティア活動をしたいと思えます。そして、大会が成功することを願っています。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。国体は全国各地から選手や監督、観客が集うので、ご指摘のとおり、狭山市を知っていただくには、またとない機会であると考えています。観光ガイドの配布や物産品を紹介し、より多くの方に狭山市をPRしたいと思います。国体の成功に向けて、市民のみなさんご協力をお願いします。

担当・国民体育大会推進事務局

好きな言葉 努力

無限の可能性を感じるから



Michael Odediran
マイケル・オディディラン
(堀兼中学校勤務)

ナイジェリア出身
今年の4月から狭山市
のALTとして勤務
海でダイビングをする
のが趣味です

A ssistant L language T eacher

The slight difference is on the part of the curriculum. Pupils in Nigeria elementary schools start studying English as a subject from 3rd grade. The English teachers, who are from themselves Nigerians, use local language to teach to foster proper understanding. Averagely smart pupils are able to communicate in English from the 5th grade of elementary education. English is the official language and as well as the language instruction in secondary and tertiary instructions. A student has to be able to speak English in order to have college education. I'm of the opinion that English should be used to teach more subjects in high schools and colleges in Japan as well so the students will be challenged more to study and be proficient in the language.

ナイジェリアと日本の教育制度に大きな違いはありませんが、カリキュラム(教育課程)の一部が違います。ナイジェリアの小学校は、3年生から英語の勉強を始めます。基礎的な力のある子なら5年生ぐらいから英語でコミュニケーションができます。英語は国の公式言語であるだけでなく、中・高校や大学では授業で教えるときに使う言語です。したがって、生徒たちは大学教育を受けるために英語を話せるようにならなければいけません。生徒たちがもっと英語学習に挑み、英語の能力が高くなるように、日本でもナイジェリアのように高校や大学で多くの教科・科目を英語で教えたほうがよいと思います。

(英文の要約)